

# 園だより



駿河台大学第一幼稚園

7月号



一学期最終号になりました。3ヶ月の間、子どもたちはどのように幼稚園での生活を楽しんできましたでしょうか。

幼稚園の暮らし方について考えてみました。大人から見たら毎日ゆるやかに暮らしているように見える幼稚園の日々です。一日のその生活の中で、嬉しい、楽しい、わくわくなど、心が柔らかくなることがあちらこちらにあります。自分で見つけた喜びだったり、友達や大人がもたらしたものだったりもあります。一日として同じではなく楽しい仕掛けやサプライズも盛りだくさんです。

逆にやりたくないことや、苦手なこと、未体験のこと、嫌なこと、わからないこととも出会います。自分の思い描いたようにならないことや相手の動きや態度に怒りや残念な思いを感じることもあると思います。自分からちょっといたずらをしてみたり、悪さをしてみたりも。励まされたり助けられたり手を貸してもらったり、叱られたり教えられたりして少しずつ自分の感情と折り合いをつけながら社会勉強をしています。一人ひとりの納得の形は違いますが、そのひとつひとつに寄り添い、共に考えて成長につなげる園でありたいと思っています。

さて、今年つながろうプロジェクトを通して、子どもたちと様々な職員とのかかわりを持ち、思いがけない成果がありますが、子ども同士の異年齢交流も盛んに行っています。その時に知り合った子ども同士が何日か後にも声をかけ合う姿、年長者が自分より年下の子どもをいたわる姿が見られています。泣いている年少児には思いやりのある言葉や優しいかかわり方をしているのも嬉しい姿です。人とのかかわりの中で多くのことを学んでほしいと思います。

